

第2回 ESD 連続セミナー概要報告

◇ 平成 28 年 5 月 25 日（水）19 時～21 時

◇ 奈良教育大学次世代教員養成センター2 号館多目的ホール

◇ 参加者：19 名

垣内（伏見小）、前田（興東小）、山方（都跡小）、大西・池見（飛鳥小）、島（郡山西小）、池見（大宮小）、中村・今井（済美南小）、河野（富雄第三小）、北村・中澤・杉田・糸・堀口・後藤田・黒木・二階堂・横井（奈良教育大）

◇内容

1. 実践事例の分析

「内藤多仲に学ぶ。災害を防ぐのは自分たちだ！」

○修正ポイント：内藤多仲そのものより、防災に焦点を移動させた。

○よい点

- ・奈良から現代へ つながる技術の流れが面白い
- ・ゴールがはっきりした（今、自分にできること）。
- ・リアルな写真や被災された方のお話など、地震と子どもの距離を近づけている



○改善ポイント

- ・④の発問が内藤多仲に学ぶにつながるか？
- ・評価規準に書かれていることを指導者自身が示せていない
- ・耐震実験をさせるとよい
- ・ゴールで防災グッズの準備 具体的活動の方がいいのでは。防災意識を高める行動化
- ・チェックリストを作成し、自分の家をチェック

する。その後で、保護者や地域の人向けに、学習したことを発信する。その後でもう一度チェックして、家の中の変わり方を再調査する。

- ・全国ゆれやすさマップから日本のどこでも地震が可能性を示せばさらによい
- ・内藤多仲の思いに迫る というサブテーマにするといい。
- ・途中に、住宅メーカーの見学を入れ、倒れない建物造りの流れが今も息づいていることに気づかせてはどうか（メーカーの方に内藤多仲について教えてもらうのもよい）。

2. ESD の理論研究

国立教育政策研究所の資料（平成 24 年）

目標：「持続可能な社会づくりに関わる課題を見出し、それらを解決するための必要な能力・態度を身につけること」

この目標は2つの部分からできている。

- ①課題を見出すこと ESD メガネ（持続可能な社会づくりの構成概念）
- ②解決するための能力・態度 重視する能力・態度

持続可能な社会づくりの構成概念は実態概念と規範概念からできている。国立教育政策研究所の表の上段が実態概念である。持続可能な社会や自然環境には、多様性・相互性・有限性という特色がみられる。それが見出せない場合、それが課題である。つまり、実態概念は課題を見出すメガネとして機能する。

規範概念は、人や集団の意思や行動を対象とする。上述した実態概念と同じように、人や集団の意思や行動の持続可能性を評価する際のメガネとなる。また、それは、ESDで身につけさせたい価値観でもある。

◇重視する能力・態度

4つの能力と3つの態度があるが、態度は価値観が表面化したものにとらえ、態度については価値観に入れてもよいと考えている。

◇留意事項

ESD 実施計画 A・B・C

ESD-J ①～⑧

	池見	大西	山方
教材のつながり	B	B ①・③・⑧	A・B・C ①・②・③・⑥・⑦・⑧
人のつながり	①・④・⑥・⑦	④・⑥・⑦	B ①・②・④・⑥・⑦・⑧
能力態度のつながり	A・C ②・	A・C ②	A・B・C ②・③・⑤・⑦

3つのグループをまとめると

	共通
教材のつながり	B：体験・体感・探究・実践を重視する参加型アプローチ ①：参加体験型の手法 ③：継続性のある学びのプロセス ⑧：ただ一つの正解をあらかじめ用意しないこと
人のつながり	④：多様な立場・世代の人々との学び ⑥：人や地域の可能性の最大限の活用 ⑦：互いの学び合い
能力態度のつながり	A：関心・意欲・態度・問題解決能力の育成を通じて具体的な行動を促すこと C：活動の場で学習者の自発的な行動を引き出すこと ②：現実的課題への実践的取組 ⑤：学習者の主体性の尊重

次回の ESD 連続セミナー

6月23日(木)

テキスト：持続可能な発展のための教育（ESD）の世界的潮流：佐藤学
担当

第1章（pp.16-21）：中村先生

第2章（pp.22-28）2：島先生

資料（pp.29-32）：垣内先生

◇ESD ティーチャープログラム

学生と指導案作成指導教員の組み合わせ

糸 　　：中村（済美南）

二階堂 　：山方（都跡）

横井 　　：西口（平城西）

後藤田 　：大西（飛鳥）

堀口 　　：石田（済美）

黒木 　　：池見（大宮）

杉田 　　：河野（富雄第三）・中澤（平群北）

